

秋田県教育カウンセラー協会 第6回 “リレーエッセイ”

寄り添う気持ち～女性支援に大切な視点～

県立高校教諭、秋田県教育カウンセラー協会会員

糸田 由香子

「第三の居場所」の重要性が注目されている。学校や職場ではなく、家庭でもない「第三の居場所」。年齢や性別を問わず「孤独」が不安感をつのらせて物事を悪い方向に進ませるので、それを防ぐためにも有効なのが「第三の居場所」と語る人もいる。

高校の教員として採用された当時、様々な生徒や保護者と出会う過程で私がい気になっていたのは、いわゆる「ひとり親家庭」で育つ子どもたちだった。教科担任として、学級担任として、そのような家庭の生徒や保護者と関わりながらふと感じたのは、両者ともどこか寂しさを抱えていることだ。

「ひとり親家庭」の生徒や保護者が抱える寂しさを知って、今後どのように対応すればいいか模索していた頃、福祉の分野に詳しい知人から紹介してもらったのがボランティアグループ「COCOすた」（ここすた）である。

「COCOすた」というグループ名には、「ここからスタート」という思いが込められている。シングルマザー支援を目的として立ち上げられ、現在では10年間の活動を終えている。私自身は途中から5年ほど一緒に活動をさせてもらった。グループの代表は相談員としての経験を持つ。その経験を通して、シングルマザーが仕事も子育ても1人で頑張っているのも、自分の気持ちを語ることができるような安心で安全な居場所が必要と考えて立ち上げたそう。

そこで、シングルマザーの居場所として月に1回、第二日曜日に遊学舎1階の応接間で「おしゃべりカフェ」を開いていた。託児もある。子どもを預けてシングルマザーが同じような境遇の人たちと話す貴重な機会だった。「おしゃべりカフェ」のほかにも、子ども食堂とのコラボイベントや自己尊重トレーニングの講座などを実施したこともある。

採用されたばかりの20代の私は、教員としても社会人としても未熟で、物事がうまくいかない日々が無力感を覚えることが何度もあった。でも、その頃から今まで私がずっとこだわるのは「生徒が卒業後に自立できるように育てること」である。そのため、子育てについて経験豊富な保護者から見ると、20代の私には生意気な言動があったのかもしれない。その影響なのか、シングルマザーの保護者から「先生は結婚も子育てもしたことはありませんよね。」

「それでは親の気持ちも子どもの気持ちも絶対にわかりません。」と強い口調で言われたこともある。痛いところを突かれ、何も言い返せなかった。

50代の現在は、そのような場合の対応方法もいくつか知っている。やはり経験は尊い。さらに、私事であるが、自分自身が母親として2人の子どもを育てるようになったことは大きいし、保護者に対応する場面での良い素材となっている。対応しながらいろいろなことがあっても、気持ちに余裕があり、経験のお陰で悩む回数も減った。

多様性を重視する社会では、女性支援という表現を限定的な感覚としてとらえる人たちがいるかもしれない。しかし、多様性が進んだ世の中でも、孤独を感じたり、貧困に苦しんだりする女性が存在するのが現実である。

女性支援のボランティアを通してたくさんの出会いがあり、学びながら身につけたことは多い。その中でも、「寄り添う気持ち」という女性支援に大切な視点を得ることができて本当に幸せだ。気持ちを尊重して寄り添いながら保護者にも生徒にも対応することを今後も継続していきたい。

〈参考〉

秋田県市民活動情報ネット

「COCO（ここ）すた」 ページ : <https://www.akita-kenmin.jp/katudou/20230610.html>

「COCOすた」は2024年に10年間の節目で活動を終わりました。

